

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771400411		
法人名	有限会社松良福祉会		
事業所名	あすなる こもれび		
所在地	石川県河北郡津幡町御門ろ64-2		
自己評価作成日	令和5年3月1日	評価結果市町村受理日	令和5年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(有)エイワイエイ研究所
所在地	金沢市無量寺5丁目45番地2 サンライズⅢ106号
訪問調査日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境を活かし ゆったりと自由な生活支援を目指し 一人ひとりの利用者が 自由に行動できるよう見守っています。大きな窓の外に見える風景やウッドデッキで感じる風や太陽の暖かさ、そして畑で収穫したばかりの旬の食材などから四季を感じることもあります。家事や畑仕事に精を出し 好きな歌を歌い 子供のころから馴染んだお経をあげるなど 自宅のような生活が継続できるよう 職員一同 利用者のご家族と共に 協力して支援しています。季節に応じ お花見やドライブを楽しんだり 以前のように ボランティアの方との交流や 地元や知人の元へ訪ねたり 買い物にも出かける日々が戻ってくることを期待しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を日々意識し 一人一人ができることを考え その人らしい楽しみが出来る様支援している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの為 利用者は地域に出る機会はほとんど無いが、管理者が町内に住んでいるので、事業所は地域とのつながりや付き合いは続いている。ごみステーションの当番など職員も関わりを続け あすなる通信を回覧していただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あすなる通信の地域での回覧を通し 活動や支援方法を紹介するなど情報発信をしている。施設玄関にも掲示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策の為 開催ができない時は 活動報告書を全利用者家族や運営推進会議構成メンバーに送付している。会議などで出た意見や要望はミーティングなどで報告される。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が行っている。町の担当者からメールや電話で問い合わせ等がある。職員は電話の内容を管理者に伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を理解し、身体拘束をしないケアを実践している。ミーティングで利用者の安全第一を意識しつつ 身体拘束しないケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に利用者の身体など観察・把握し、虐待が見過ごされないよう注意をしている。利用者の対応など ミーティングで話し合い虐待につながらないように努力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ管理者が関係者と話し合ったりしている。後見人と協力して利用者の支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して職員は関わるのが少ない。管理者が 本人・家族に十分に説明し、納得が得られたうえで 利用されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議での意見はミーティング時やその都度報告があり 話し合い共有している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と共に勤務する機会も多く 意見や提案がしやすく ミーティングなどでも話し合い反映させるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の勤務希望や労働時間の希望などは話しあい働きやすい環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習の案内は回覧や掲示されている。コロナの影響もあり 研修の機会は少なくなっているが、ズームでの研修なども取り入れるようになった。ガウンテクニックなどは繰り返しトレーニングしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会はないが管理者はグループホーム連絡会やケアマネジャー等の同業者と情報共有している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人ひとりが日頃から観察を行い利用開始時の本人の思いや不安に寄り添い安心して暮らせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者よりご家族の不安や要望の報告を受け職員間で共有し必要な支援を一緒に考える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人がより良く過ごせるよう要望するサービスの導入を検討し取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活を通し利用者とはよく話し協力し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響で面会時間は限られているが、本人と家族が落ち着いて過ごせる空間づくりをしている。 家族には生活の様子を伝えながら、共に本人を支えていくように良い関係作りを大切に考えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で馴染みの人や場所に出向くことは無くなったが、知人などの面会の希望があれば、予約の上実施している。 気晴らしのドライブ途中で自宅近くやなじみと思われる場所を通ることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ孤立しないよう座席位置を工夫したり 共通の話題を投げかけたりしている。利用者同士と一緒に作業したり楽しく過ごせるよう努めている。助け合う姿も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の支援の機会は少ないが、医療機関からの退院先や次の利用サービスについて家族からの相談には管理者が対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞いたり、日頃の本人の行動や表情からその人なりの思いを把握するよう努めている。自分の思いを上手に伝えられないこともあり、常に寄り添い本人の気持ちを考える様務めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の担当ケアマネなどからの生活歴や生活環境に関する情報も参考にしている。本人・家族から話を聞き より多くの情報から利用者の暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りで 職員が現状を把握し、月1回のミーティング時に現状を共有し確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回ミーティングで意見交換を行い現状に応じた介護計画となるよう話し合っている。家族の意見も求め 3ヶ月を目安にモニタリングしているが 本人の状況変化に応じ計画変更も行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りで情報を共有しその都度話し合い、見直しに活かしている。ケア記録アプリの導入で 情報共有しやすくなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナの影響で外出支援はなかなかできないが、天気の良い日に近所に散歩に出たりウッドデッキに出て気分転換している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との触れ合いは現在できていないが、施設の夏祭りの打ち上げ花火は楽しんでく だっさていると思われる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはサービス利用前からのかかりつけ医を受診しているが、家族の都合などで訪問診療を利用している利用者が多い。受診時には管理者や職員が付き添い、医療関係者に情報提供し、家族にも状況を説明し適切な医療が受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の状態に変化がある時は看護師に相談し、処置や指示を受けている。3名在籍しており不在のときも電話で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や看護師は協力病院の担当者と電話で情報交換の機会を持つようにしている。今後も関係作りを続けたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス導入の段階で本人・家族に方針を説明し契約時に意向確認のアンケートを行っている。状況の変化に応じその都度話し合いの機会を持つという方針を共有している。かかりつけ医や地域の関係者と共に支援方法を共有出来る様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し職員の目につく場所に貼り見ながら対応できるようにしている。 急変時・事故発生時はすぐに管理者に連絡し共に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	管理者に連絡し連絡網・グループLINEを通じて全職員に連絡が取れる体制になっている。共に対応している。緊急時等のマニュアルを作成しいつでも確認できるようにしている。		
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関や往診医は 休日夜間も対応可能となっている。介護施設での感染症発生時の「いしかわ福祉施設相互応援ネットワーク」に参加している。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニット1名ずつの夜勤者が協力する体制になっている。緊急時には管理者が駆けつけ指示や対応を行う。緊急連絡網により看護師や職員の応援を得る体制になっている。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。非常口の再確認。。安全な場所への誘導確認。 BCP作成したばかりなので 職員が理解し行動に移せるようにしていかなければならない。地域の福祉避難所となるので 非常用発電設備を設置している。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	スプリンクラー・自動火災通報装置などが設置されている。災害時の食糧などの備蓄や発電機がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけることの無いよう心掛け 敬意を忘れない言葉使いや声の大きさに気を付けている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほぼ毎日 利用者と職員がゆっくり話をする時間があり なんでも話しやすい関係作りに努めている。決めつけるように話すのではなく 自己決定しやすい問いかけを心掛けている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やおやつ以外の時間以外は 利用者のペースに合わせ、居室で過ごされたり、ソファでテレビを観られている。希望がわかれば職員間で話し合い希望に沿った支援が出来るよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でタンスなどから着たい洋服を選び更衣や重ね着をされている。食べこぼしなどで汚れた際には声掛けて更衣していただき清潔保持に努めている。選ぶことが出来ない方には季節に合わせて清潔な服装が出来るよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下準備・盛り付け・食器拭きなど一緒にしている。会話しながら笑って作業されている。大まかな献立があるが ホームの畑で採れた野菜などを使い 季節感を感じられるようにしている。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者向きに栄養バランスの取れたメニュー。個々の食べる量や好みに合わせ 食事形態や水分摂取方法も工夫している。ムース食・ペースト食・トロミ・刻み・ゼリーなど各自の状態に合わせた支援をしている。必要があれば食事量や水分量も記録し共有している		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣も考慮し 起床時と夕食後口腔ケアを促している。夜間は義歯を外して休んでいただいている。自歯の歯磨きやうがいが出来ない方は介助し清潔に保つよう支援している。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを職員間で共有し、促しの声掛けを行い、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。 利用前はおむつ内排泄だった方が ほぼトイレで排泄できるようになった方もいる。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳酸飲料を取り入れるようにしたり、1日3回テレビ体操で楽しく運動できるよう取り組んでいる。水分摂取量が少ない方は本人の好みのものを用意したり 形態を工夫している。可能な方は排便量をチェックし 必要に応じ緩下剤を服用していただいている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが 声掛けで本人の希望を確認したりその日の体調を見極め週2回以上入浴を支援している。		
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自席でうとうとしている方には自室で休むよう声掛けし 夜間不眠にならないよう時間を見計らって起きていただいている。眠れないときは一緒に過ごし 話をしたり飲み物をお出しするなどリラックスできるよう心掛けている。室温や寝具の調整をしている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はいつでも確認できるようにしている。変更は申し送りや日誌で共有している。症状の変化の確認に努め 職員間で共有し主治医に報告している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理・後片付け・洗濯物などの家事、畑仕事などの役割を持ち、楽しみながら協力してできるよう支援している。気分転換にドライブに出たり好きな歌のCDをかけたり歌詞カードを準備している。各自の嗜好に合わせて コーヒー、体操・散歩、刺し子や手芸、塗り絵やパズル、習字など用意している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で希望の外出は出来ないが 天気が良ければ近隣の散歩やドライブに出ることもある。希望にあわせての外出や外食を 家族や地域も理解し協力的		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には持っていたいただいているが、買い物支援は控えており 欲しいものがあれば立て替えて購入している。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも使えるようにしている。手紙をもらったら返事を書くようながしたり 電話で話せるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンや床暖房で快適に過ごせるよう温度・湿度の調整や換気を行ったりまぶしさの調整を行っている。季節毎に壁面を利用し 利用者が協力して作成した塗り絵や作品を掲示している。リビングから外の景色が見え 季節を感じることが出来る。		
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ近くにソファを置き、数人で座ったり思い思いに過ごされている。家事がしやすいよう座席の配置など工夫している。 和室、薪ストーブのある多目的ホールなど自由に過ごすことができる場所がある。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたタンスやテレビ等を持ってきたり 写真・アルバムを見てお話しすることもある。 ベッドの位置を工夫し手すりを付ける等 安全に 居心地よく過ごせるように工夫している		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は利用者にわかるよう表示したり、トイレ・廊下・浴室には手すりが設置しており 安全に移動できるようになっている。 歩行器や車椅子が動きやすい広さがある。		